

日米友好ハナミズキ ケネディ大使ら植樹



ハナミズキを植樹するケネディ駐日米大使(右)(10日、世田谷区の都立園芸高校で)

都立園芸高校(世田谷区)で10日、日米友好の証しとして知られるハナミズキの苗木の植樹式が行われ、キャロライン・ケネディ駐日米国大使らが出席した。

同校には米国が1915年に日本に贈ったハナミズキの苗木40本のうち、現存が確認できる最後の1本が育っている。同校によると、12年、当時の尾崎行雄東京市長が米国に桜の苗木を寄贈。その育成に、同校の熊谷八十三・初代校長がたずさわった縁で、同校にもハナミズキが寄贈されたという。植樹式では、同校内の庭園に高さ約1メートルの苗木2本が新たに植えられた。ケネディ大使は植樹を終えた後、生徒らを前に「今日植えた木々は日米両国を結びつけ、遠い未来まで花を咲かせ続ける。100年前にもらった桜への感謝の気持ちも込めている」とスピーチした。

日米友好、ハナミズキ寄贈百年 都内で記念祭



ハナミズキ寄贈100周年を記念し、植樹するキャロライン・ケネディ駐日米大使
＝10日、東京都世田谷区の都立園芸高校

ケネディ米大使が記念植樹

日米友好の象徴として米国からハナミズキが贈られて100周年となる10日、東京都立園芸高校（世田谷区）で記念祭があった。

ハナミズキは1915年、米国に桜を寄贈した返礼として苗40本が贈られた。寿命は通常80年程度で、現存するのは同校の1本のみとされる。記念祭では、日米交流財団（ワシントン）から新たにハナミズキの苗26本が同校に贈られ、キャロライン・ケネディ駐日米大使らが記念植樹した。



日米友好の象徴として米国からハナミズキが贈られて100周年となる10日、
東京都立園芸高校（世田谷区）で記念祭があった。

ハナミズキは1915年、米国に桜を寄贈した返礼として苗40本が贈られた。寿命は通常80年程度で、現存するのは同校の1本のみとされる。

記念祭では、日米交流財団(ワシントン)から新たにハナミズキの苗26本が同校に贈られ、キャロライン・ケネディ駐日米大使らが記念植樹した。

ケネディ大使は「これらの木々は日米を結びつけ、遠い未来まで花を咲かせ続ける」と述べた。

ハナミズキは、東京・代々木公園や東日本大震災の被災地などにも寄贈されている。

ハナミズキ 次の100年へ 100年前の植樹

園芸高生が調査・発表



（東京新聞）

百年前に米国から桜寄贈の返礼に日本に贈られたハナミズキ四十本の最後の一本が残る都立園芸高校（世田谷区）。生徒有志は、寄贈桜の育成に関わった前身校の初代校長熊谷八十三（やそぞう）氏やハナミズキについて一年かけて調査した。ハナミズキ植樹から百年となる十日、同校で開かれた「ハナミズキ百年祭」で成果を発表し、日米友好の花を「さらに百年後にも伝えたい」と思いを述べた。（松村裕子）

生徒有志は、三年の渋井楓（かえで）さん（17）を委員長に十五人が「ハナミズキプロジェクト」をつくって活動。昨春から、米国から苗木が贈られるきっかけになった初代校長の熊谷氏やハナミズキなどのテーマで調べた。

夏休みや冬休みを利用して、同校以外にハナミズキが植樹された日比谷公園（千代田区）や小石川植物園（文京区）も訪ねた。

百年祭の発表会では、全校生徒や同窓生らが集まった。生徒たちは、熊谷氏の研究では、校長から静岡市の研究機関に技師として転任後、害虫のつかない

桜の苗木作りにあたったことなども紹介した。メンバーの一人で二年の柏原由実さん（１６）は百年祭の終了後、「初代校長は果樹園芸の基礎を築くなど、いろんなことに取り組んだ。すごい校長がいたんだなと思った」と感想を口にした。

この日、キャロライン・ケネディ米駐日大使らが植樹した百年祭に参加した二年の草川雪凧（ゆきな）さん（１６）は「百年、二百年後まで原木を守ってギネスブックに載せたい」、三年の長坂知枝さん（１７）も「接ぎ木をしてもっと増やしたい」と意欲を見せた。農業大への進学を目指す定時制三年の佐々木勝成さん（１７）は「母校にたった一本残る原木について伝えていきたい」と話した。



2015 年 4 月 10 日（金）15:20

都立園芸高で「ハナミズキ百年祭」米ケネディ大使ら出席、記念切手発行も



東京都立園芸高校（世田谷区深沢 5）で 4 月 10 日、「ハナミズキ百年祭」が開かれた。（二子玉川経済新聞）

1915（大正 4）年にタフト米国大統領から寄贈されたハナミズキの植樹 100 年を祝う同祭。

1908（明治 41）年に日本初の園芸専門の教育機関として設立された同校は、園芸、食品、動物の 3 科を設置し、10 万 7769 平方メートルの校地に約 320 種の樹木、庭園圃（ほ）場、果樹園、農場などを備えている。

校内のイチョウ並木を過ぎた場所にある、高さ約 8 メートルの 1 本のハナミズキは、「日米友好交流の証し」として同校に伝わる。同木は、1912（大正元）年、当時の尾崎行雄東京市長が桜の苗木 6040 本を米国へ寄贈したことを受け、1915（大正 4）年にその「返礼」としてタフト米国大統領から各地へ届けられた 40 本のハナミズキ（白）のうちの一つ。同校の徳田安伸校長によると「現在、国内に残る返礼の原木は同校にある木が唯一」とも。

記念式典の様子



「ハナミズキ百年祭」式典で記念切手額を受け取るケネディ大使（4 月 10 日 12 時）（2015-04-10）

寄贈から 100 年目にあたる今年、同校と同窓会や PTA らで企画したこの日の百年祭には、キャロライン・ブービエ・ケネディ大使など米国大使館関係者、農林水産副大臣の小泉昭男参議院議員、中井敬三・東京都教育委員会教育長、「友好の木ハナミズキ イニシアチブ」企業スポンサーのアブラック・インターナショナルのライアン・アームストロングさん、尾崎行雄・元市長のひ孫で

ある尾崎行雄記念財団の原不二子理事、文部科学省と総務省の各担当者、東京都議会議員ほか各団体からの来賓を招き、校内の「西洋庭園」へ新たにハナミズキ苗木を植樹した。

ケネディ大使は記念式典で、「日米の最高の園芸技術の証しを今日、この目で見たことを嬉しく思う」と話したあとに高橋亨日本郵便社長から「米国からのハナミズキ寄贈 100 周年」記念切手が入った額を受け取り満面の笑顔を見せた。

このほか、尾崎行雄財団の石田尊昭事務局長、東京大学小石川植物園主任の山口正さんによる記念講演では、「樹齢 80 年とされる同木が 100 年間育成されてきたこと、そこに携わった人々の思いを次の世代へつなぐことが大切」との話があった。その後、同校生徒による「ハナミズキプロジェクト調査発表」が行われ、最後は歌手の一青窈（ひととよう）さんの歌「ハナミズキ」と校歌を全校で斉唱した。

「ハナミズキ寄贈 100 周年」記念切手は 4 月 10 日から、全国の郵便局などで販売する。価格は 1 シート（82 円切手 10 枚）＝820 円。



「ハナミズキ寄贈 100 周年」記念切手を販売する 1 日だけの郵便局ブース（2015-04-10）

〈関連記事〉 2012 年版

5 月に地域へ公開される同校バラ園

1915（大正 4）年に当時のタフト米国大統領から贈られたハナミズキが今年も開花した。

同校は 1908（明治 41）年に日本初の園芸専門の教育機関として設立。園芸、食品、動物の 3 科を設置し、10 万 7769 平方メートルの校地に約 320 種の樹木、庭園圃（ほ）場、果樹園、農場などを備えている。

校内のイチョウ並木を過ぎた場所にある高さおよそ 8 メートルの 1 本のハナミズキは、希少な「日米親善交流の証」。1912（大正元）年、当時の尾崎行雄東京市長が桜の苗木 6040 本を米国へ寄贈。1915（大正 4）年にその返礼としてタフト米国大統領から届けられた 40 本のハナミズキ（白）の苗木は、日比谷公園、小石川植物園など 16 カ所に分植された。そのうちの 2 本が同校に植樹されたもの。現在、返礼の「原木」の多くは枯れているか行方が不明といわれている。



2015 年に植樹 100 年を迎える「返礼」のハナミズキ

2000 年にタフト米国オハイオ州知事から贈られた

「第 2 世代」ハナミズキ



同校への植樹の経緯は同校の初代校長を務めた熊谷八十三（やそぞう）技師が、米国へ贈った「病虫害の発生の無い」桜の苗木作りに大きな功績を残したことが理由の一つと「推測される」と話す。同校に贈られた 2 本のハナミズキのうち 1 本は 1996 年ごろに強風で倒れ枯れてしまった。

この「ハナミズキ原木」は少人数であれば見学可能。同校事務室で受け付けが必要。

同校は 5 月に同校保護者と近隣住民向けに学校公開を開催する。約 200 種 600 株のバラが栽培されているバラ園も開放し、講堂では「バラ園芸フォーラム」を開催する。「生徒たちが授業で手入れしたバラ。生徒も一緒に咲いている」
（一部修正 都立園芸高校）